令和７度　　令和８年１月３０日評価実施

ひばりゆりかご保育園：園　評　価

（評価）　A：大変良い　B：よい　C：一部検討を要する　D:改善を要する

Ⅰ・保育理念		評価
子どもの最善の利益の考慮	・全ての園児について一人一人の最善の利益とその人権を尊重している。	A
	・子どもの人格を尊重した声掛けをしている。	A
	・子どもの意思や行動を大切にした関わりをしている。	A
	・園の理念や保育方針を理解し実践している。	B
Ⅱ・子どもの発達援助		
(1) 子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場	・保育環境を常に清潔に保ち、美観を大切にし心地よい環境で保育が出来るように努めている。	A
	・一日の生活の流れに無理が無いように配慮し、保育環境の安全と清潔が保たれている。	A
(2) 生活と発達の連続性	・好きな遊びを十分に楽しめるように計画し、働きかけをおこなっている。	A
	・一人一人の子どもの発達過程に合わせた目標や計画を作成し保育している。	A
	・重要な申し送り事項を記録し、進級時等に引継ぎをしている。	A
(3) 養護と教育の一体的展開	・子どもの生活を24時間でとらえ、家庭（保護者）や職員間での連絡、連携をしている。	A
	・子どもの家庭の状況や要望、成長歴を把握している	A
	・基本的生活習慣は、園児の発達を考慮し、家庭と連携して状況に応じて対応している。	A
(4) 環境を通して行う保育	・子どもが保育士や友達とともに過ごすことを楽しめるような配慮をしている	A
	・一人一人が興味・関心を持って遊べるよう援助している。	A
	・子どもがしたいこと、して欲しいことを話しているとき、最後までゆっくり聴くようにしている。	A
	・子どもがのびのびと体を動かせるような遊びの環境を意識してつくっている。	A
	・子どもが自発的に表現するよう、自由に使える様々な素材を用意している。	B
	・生活や遊びの中で、食に関する興味関心が広げられる働きかけをしている。	B

	・園児に分かりやすい温かな言葉使いで穏やかに話をしている。	A
	・身近な自然に触れる機会を用意し、季節感や豊かな感性を育む配慮をしている。	A
	・園児同士の関わりで、順番を守るなどの社会的ルールを身につける配慮をしている。	B
Ⅲ保護者に対する支援		
(1) 家庭との連携	・園だより、クラスだより、連絡帳を通して子どもの成長の喜びを保護者と共有出来るようにしている。	A
	・保育参観、保育参加、保護者参加行事などを通して、保育内容・保育の目的などをわかりやすく説明している。	A
	・毎月の献立は保護者に示され、毎日の食事の状況を保護者に知らせている。	A
	・悩みを抱えている保護者の援助をこころがけている。	A
(2) 地域ににおける子育て支援	・一時保育事業を行っている。	A
	・地域の関係機関や施設の研修などに参加している。	B
Ⅳ 保育を支える組織的基盤		
(1) 健康及び安全の実施体制	・子どもの日々の健康状態を把握している。	A
	・園児の健康診断は定期的に実施されその結果は職員や保護者に伝達され保育に反映されている。	A
	・施設、設備の安全点検を点検マニュアルに沿って行い不具合な箇所を必要な対策をとっている。	A
	・地震・火災・不審者侵入時などの緊急対応手順を理解している。	B
	・指導計画について、各月の振り返りを行い、次月の向けての計画を検討している。	A
(2) 資質の向上	・保育に関する専門書を読んだり、研修に参加し知識や技術の向上に努めている。	A
	・職員として不正、不適切な行為を行わないよう、守るべき法規範、倫理などを理解している。	A
(3) 社会的責任	・守秘義務を理解し、個人情報について、園のルールに基づき取り扱っている。	A
	・保護者からの意見や要望、苦情を迅速に園長に報告し、職員間で共有し、改善している。	A

総評価

・園内感染対策は、昨年度と同じように継続。基本の手洗いと玩具の消毒は徹底する。大流行の感染症はなかったが、冬になり、0歳児にＲＳウイルスに感染した園児が多くいた。咳をしながらの園児もいたが、まだマスクの着用が無理なので、いつも以上に水分を摂取出来る様に配慮し、換気と加湿も常に数字で確認するようにした。

・子ども達の成長には、体を動かす事と目然に触れる事が大切と保育を展開する。春秋は、園庭とどんぐり広場で遊ぶ事で五感を刺激する。夏は、朝からエアコンをフル活動さての保育になるが、日中は、園庭の木陰で水遊びを毎日行う。開放感を味わいながら、自ら体温調節ができるような体になっていく事を願う。冬も外遊びに出ることで、冷たい空気にも触れ、気管や皮膚を鍛え、丈夫な身体を作る基礎を育てていく。室内では、体幹が鍛えられるような動きのできる遊びを多く取り入れるように心掛ける。

・年度後半になるが、職員の研修を多く取り入れる。保育に必要なことの再確認と新しい情報を勉強する。本人のスキルアップと研修内容を全職員で共有したことで、保育の更なる充実に繋がったと思う。

・災害時用の備品が増えてきている。園舎内に収まり切らなくなり、園舎裏に物置を設置。

・エントランスの傘型屋根の内側のほこりと鳥の糞の大掃除をする（業者）。その後は、常に来ていたスズメの姿を見なくなる。